

2024年度南山大学大学院法務研究科法務専攻〈専門職学位課程〉入学試験  
A日程「小論文」 試験問題概要および出題趣旨

---

〈試験問題概要〉

**問題** 以下の文章を読み、〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。

下記出典の書籍の一部を改変しつつ引用し、問題文※として出題した。

出典：泰正樹『陰謀論』、中公新書、2022年、i～v頁。

※問題文は、著作権の関係上非掲載とします。

〔設問1〕 下線部について、「荒唐無稽とも思える陰謀論」を信じてしまう理由やメカニズムを、筆者はどのように考えているか、説明しなさい。(300字程度)

〔設問2〕 「荒唐無稽とも思える陰謀論」が蔓延しないようするためには、具体的にいかなる対策があるだろうか(複数でも可)。その対策に伴う問題にも留意しながら検討しなさい。(700字程度)

(この問題は、法律学の知識を問うものではありませんので、法令、判例、学説等に言及する必要はありません。)

〈出題趣旨〉

気鋭の政治学者が執筆した図書の一部を読ませた上で、受験生の読解力と論理的思考力、さらに表現力・記述力を問うた。

〔設問1〕では、2021年1月に起きたアメリカ連邦議会襲撃事件を例に挙げながら、「陰謀論」の性質や特徴を紹介している問題文を解読させて、「荒唐無稽とも思える陰謀論」を信じてしまう理由やメカニズムに対する筆者の考えを要約させた。問題文の範囲内で、筆者が展開する説明内容を的確に要約することができるかどうか、という点に着目して評価した。

〔設問2〕では、「荒唐無稽とも思える陰謀論」が蔓延しないようにする対策について論じさせた。問題文も踏まえつつ、志願者が考える実行可能で具体的な対策について検討できているかどうか、また、当該対策に伴う諸問題についても配慮しているかどうか、さらに、論理的で説得力のある文章となっているかどうか、という点に着目して評価した。

以上

2024年度南山大学大学院法務研究科法務専攻〈専門職学位課程〉入学試験  
B日程「小論文」 試験問題概要および出題趣旨

〈試験問題概要〉

**問題** 以下の文章を読み、〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。

下記出典の書籍の一部を改変しつつ引用し、問題文※として出題した。

出典：おおたとしまさ『新・女子校という選択』、日本経済新聞社、2019年、33-38頁。

※問題文は、著作権の関係上非掲載とします。

〔設問1〕 下線部のように筆者が考えている理由をまとめなさい。(400字程度)

〔設問2〕 世界経済フォーラムが発表している「ジェンダー・ギャップ指数2022」によれば、日本（総合スコア0.650。0が完全不平等、1が完全平等）は調査対象国146カ国中116位と、世界的に見てジェンダー・ギャップが大きい国である。このような状況を改善するためにわが国はどのような対策を採るべきか、論じなさい。(600字程度)

(この問題は、法律学の知識を問うものではありませんので、法令、判例、学説等に言及する必要はありません。)

〈出題趣旨〉

本問は、おおたとしまさ『新・女子校という選択』（日本経済新聞社、2019）33頁以下を読み、設問について検討する中で、受験者の論理的思考力を問うものである。

〔設問1〕は、下線のように筆者が考える理由を、本文の中から抽出するものである。

〔設問2〕は、ジェンダーギャップ指数の改善のために、どのような政策が必要であるのか、という点を切り口にして、論理的思考力と多角的考察力を測るものである。本文の中で主張されているように、バイアスがかかっている状態でのギャップ改善はあまり効果が無く、そのバイアスを取り除いた状態での改善が望ましい、という視点をどのように自己の中で取り込めるのかが1つのポイントとなる。

以上

2024年度南山大学大学院法務研究科法務専攻〈専門職学位課程〉入学試験  
C日程「小論文」 試験問題概要および出題趣旨

---

〈試験問題概要〉

**問題** 以下の文章を読み、〔設問1〕および〔設問2〕に答えなさい。

下記出典の書籍の一部を改変しつつ引用し、問題文※として出題した。

出典：ランドル・コリンズ『脱常識の社会学——社会の読み方入門（第2版）』井上俊・磯部卓三訳、岩波書店、2013年、24～27頁。

※問題文は、著作権の関係上非掲載とします。

〔設問1〕 下線部①の意味を本文に即して説明しなさい。（300字程度）

〔設問2〕 下線部②の主張について、本文で挙げられている以外の具体的な出来事や事例に触れながら、あなたの意見を述べなさい。（700字程度）

（この問題は、法律学の知識を問うものではありませんので、法令、判例、学説等に言及する必要はありません。）

〈出題趣旨〉

法曹という専門職を目指す人々に対し、社会に対する幅広い見方を備えているかどうかを問う意図から、R・コリンズ『脱常識の社会学』（岩波書店、2013年）を題材とした。

〔設問1〕は、文章の趣旨に関する理解を問う問題であり、論理の筋道を追う能力と、その理解を明晰に表現する能力とが備わっているかどうかを問うた。

〔設問2〕は、文章の趣旨を踏まえて自らの考えを述べる問題であり、客観的かつ論理的に思考を展開する能力と、その結果を明晰に表現する能力とが備わっているかどうかを問うた。

以上